



生命尊重推進の会

NPO法人

天使のほほえみ

第6号 平成20年 4月15日 発行

お友達をお誘い下さい

年会費 個人 一口 千円以上

法人 一口 五千円以上

郵便振替口座

00100-6-316987

特定非営利活動法人 天使のほほえみ

発行所

NPO 法人
天使のほほえみ

発行人 鎌田久子

編集人 菊池光男

天の益人（あめのますひと）
 新年度の活動に向けて！

理事長 鎌田久子

ある日「天使のほほえみ」が消え
 そうになりました。

サムシング・グレード（偉大なる
 何者か）の世界で生まれた多くの無
 限の可能性を秘めた生命を、地上に
 届ける大切な翼を心ない人達にも
 ぎ取られてしまったのです。

「翼がなくては、羽ばたかせませ
 ン」天使は、声を上げずに泣きました
 。日本中、いえない世界中に授かっ
 た生命を大切に生み育てる、愛の心
 を届けたいと希望に燃えていまし
 たから……

天使の涙は「光」の雫となって私
 たちの魂を浄め「発光体」へと高め
 て下さるのでした。

「私たちはくじけません」

この大きな試練を乗り越えてサ
 ムシング・グレードからの理念（メ
 ッセージ）を、多くの方々に広め、
 役に立ちたいと、天使から注がれ
 た「光」の雫を自ら発光させ、各地

にふり注ぎ、「光の拠点」十八支部
 を設けることができました。

全国同志の皆様への熱い祈りと暖
 かい励ましと、ご支援の賜でござい
 ます。心より感謝申し上げます。

今年度はあせらず、たゆまず地に
 注がれた「光」の雫が支部として芽
 生え、しっかりと根を張り地域を照ら
 す「発光体」として、ぐんぐん大き
 く育ち全国四十七支部の組織とな
 るよう、拡充を計ってまいります。

また「天使のほほえみ」の信条に
 賛同する会員を五百人以上に拡大
 し、中絶防止を多くの方々に訴える
 「愛の実践者」になって頂きたいと
 念願しています。

真心を捧げて「愛を実践する」同
 志が殖えるたびに「天使のほほえみ
 」が甦り、その両翼には黄金に輝く
 翼が光っています。

古書に「天の益人」（あめのます
 ひと）と言う言葉（ことだま）が記
 されています。天の御心は「生めよ
 、殖えよ、地に満てよ」と、ご自身
 の分け御霊を日々（ひ）の本にた
 くさん天降し給いました。

日本は天皇様を中心に、総ての生
 命を生かし、尊ぶ国柄です。

古代の日本人は、お互いの生命を合
 掌礼拝し挨拶を交えながら栄えて
 きました。終戦後米国は、天に祝福
 された、人口増殖率の高い日本を弱
 体化するために母体保護法（殺人

奨励法を課してきました。その結果
 、短期間に人口を激減させられた日
 本は、少子化を始めあらゆる分野に
 悪影響を被っています。小学生にま
 で平気で中絶を犯させてはなりま
 せん。

「天の益人」の国・道義国家の再
 建を目指し、一緒に生命がけの活
 動を展開して参りましょう。昼も夜
 も天使は休まずほほえみながら羽
 ばたいています。

就任の挨拶

事務局長 野田 富美子

事務局長の野田富美子です。未熟
 ですが、主人を始め優れたスタッフ
 と共に職務に邁進したいと思っ
 ております。

「天使のほほえみ」には四名の偉
 大な方々がおります。

それは顧問の田下昌明小児科医、
 有村治子参議院議員、池川明産婦人
 科医、そして鎌田久子理事長です。

田下先生は「人間は胎児の間に、
 受胎し生まれ死ぬまでを百m走と
 すると、三十mまで走る位の大きな
 進歩をとげる、既にかげがえのない

一個の立派な人間だ。殺すなどもつ
 ての他だ」とお仰る、言わずもがな
 、日本思想の大先生です。

有村氏は、若い政治家でありなが
 ら、多くの胎児が殺されている日本
 の現状を憂いておられます。その後
 文科省政務官となり、若千三十七歳
 にして自民党女性局長（全国四十万
 女性党員のトップ）となりました。
 池川先生は「胎児は親を選んで、
 慕って生まれてくる」真実を証明さ
 れ本法人発足と共に喜んで顧問と
 なって頂きました。五十代の医師と
 して、また講演会でも大活躍されて
 おります。

鎌田理事長は純粋さ、お優しいさ、
 頭脳明晰、献身性、忍耐強さは誰も
 が賞賛するところであり、政界への
 強いパイプ役でもあります。

これらの方々に恵まれた幸せを
 深く思いつつ、我らスタッフは「日
 本中のかげがえのないお腹の赤ち
 ゃんを守る」大切な目標に向かい、
 心一つにしてがんばってまいりま
 す。

公員通信欄

特集

出産の悦び

○姪の出産体験

和歌山県田辺市 藤野世子

平成二十年二月二十日に姪が三人目を出産しました。一人目の時は陣痛微弱で三十六時間かかりました。先のつらい経験があるので二人目の時、姪は就寝前、親に感謝し、お産は自然の営みであり、神のみ業であるから痛むはずはないと自分に言い聞かせたそうです。

出産日、夕方からお腹がジワジワしてきたので、シャワーを浴び、食事をして十九時に自分で車を運転し入院。十九時三十分に分娩台に上がって、十分後に産まれました。お医者さんに「よく運転して来たね。」と言われたそうです。三人目、昼頃からお腹が張ってきて、夜にジワジワ。二十一時四十五分に破水。妹の運転で産院へ。二十二時十八分着。五分後に出産。産院側も準備が出来ていなくて大慌てでした。

以前、姪が「上一人は男の子なので、次は女の子が欲しい…」と聞いてきたので、「男の子を育てる体験をさせて頂いているので、御心ならば女の子を授けて下さい」と祈ったらいよいよおいたところ、三人目は女の子でした。

三人目の出産が近づいてきた時、不安そうなので「字ぶ」誌に「スルツ、ポン」と生まれてきてね等、胎児との対話をする様に書かれていたことを話すと、実行したようです。

今回の体験に姪は勿論、周りのものも非常に感動し、喜んで感謝しています。

○生命の体験

赤島邦子

私は現在、息子二人、孫四人を授かりました。昭和四十五年に結婚し、妊娠が分かった主人が

「墮ろしてこんね」と、私は「墮ろす位なら別れる。」
こんな会話の中で生まれた長男も今や三十六歳、一児の父親となり家族仲良く暮らしています。

この三月に主人が肺炎にかかり急遽入院することになりました。長男夫婦は仕事の無理が祟ったのだろうと、私達の行く末を心配して一緒に暮らすことを提案してくれました。初めての入院に孫達も戸惑い、折り紙を折ったり、クッキーを焼いてくれたりと、かわいい一面を覗かせてくれていました。

あの時墮ろしていれば、今の私の心の平和はなかったと思います。

ただ三人目を妊娠した時、子育てに疲れ、自信をなくしていた私は、生むことより墮ろすことを選びました。長男一家、次男一家の仲の良さを見るにつけ、墮ろしたことを悔い、この子も親孝行しなかったであろうと心が痛みます。この子のこととを忘れることなく、私なりの供養をさせて頂いております。

これからの若い方々に後悔しないよう、中絶防止を訴え「天使のほほえみ」の会員づくりに励んでまいります。

○お腹の命大切に

黒木 フユ子

昭和五十三年五月、突然姉からの電話で、娘のサナエ（延岡高校二年生）が妊娠三ヶ月であることを、彼の仕事先の上司より電話で連絡があり、姉はびっくりしてすぐに私に電話をしてくれました。

私は電話で事情聞いた後に姉を連れて彼の職場を訪ねました。彼は三十三歳でした。そこで私は彼に「宿った命の大切なこと」等を話し、結婚するよう勧めました。

ところが周囲の者、親戚中皆反対です。子供を墮ろして、高校を卒業するように、と反対されました。我が師、谷口雅春先生の御教えを信じている私は「胎児を助ける」心が変わりはありません。

紆余曲折はありましたが、結果は私が言ってるようにサナエと彼は結婚しました。月満ちて十一月二十三日「長崎の龍宮住吉本宮の記念の日」に、無痛分娩で男子が産まれました。このかわいい男子は御教えがなければ生まれてきていない子です。そこで私は恐れ多くも、谷口雅春先生の

「雅」の字と、父・喜久治の「喜」とで、「雅喜」と名付けさせて頂きました。私は字画など考えずに付けたのですが、専門家に見てもらったらとてもよい字画だそうです。この「雅喜」くんは平成十九年日南のすてきな人と結婚し、大勢の人に愛されて幸せに暮らしております。

「トツキトワカYOKOHAMA」より
抜粋

・どんなに世界中を探しまわったって絶対に手に入らない宝物
ママは神様からもらったのよ
小さな命とトツキトワカのママだけの奇跡体験
(小山沙織・妊婦二九才)

原 祐桐 芽 芽 佳 木

次号特集予定記事

○母乳による子育て
○三才児までの育児法

その他、会員の声として
多数の応募を期待!